

科目名		施工管理法			
担当教員	富樫 久夫		実務授業の有無	○	
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 工事における各管理方法ををしっかり理解する。 2. 各工事の工程表作成し、工事の時間を計算できるように演習、講義を繰り返す。 3. 座学→演習→模擬試験→解答と解説を繰り返し行い、知識と技能を身に付ける。				
学習目標 (到達目標)	電気工事をはじめとするさまざまな工事現場で必要とされる施工計画・工程管理・品質管理・安全管理の手法を学ぶとともに、安全衛生や労働関係の常識を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①新版 電気工事士教科書 第11版 *オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	1 電気通信関連の法規/1-1電気通事業法と工事担任者規則	DD1種の法規の過去問題の答練。オリジナルプリントによる解答と説明 準備学習：①電気工事教科書 P395～P421を予習			
2	1 電気通信関連の法規/1-2端末設備等規則	DD1種の法規の過去問題の答練。オリジナルプリントによる解答と説明 準備学習：①電気工事教科書 P395～P421を予習			
3	1 電気通信関連の法規/1-3不正アクセス禁止法	DD1種の法規の過去問題の答練。オリジナルプリントによる解答と説明 準備学習：①電気工事教科書 P395～P421を予習			
4	1 電気通信関連の法規/1-4工程表 工程表の目的と種類を学ぶ	方法：教科書等の教材を使って説明。オリジナルプリント等で習得状況を答弁で随時確認 準備学習：①電気工事教科書 P347～P387			
5	2 施工計画/2-1施工計画の内容 施工計画の目的と用語、計画の流れがわかる	方法：教科書等の教材を使って説明。オリジナルプリント等で習得状況を答弁で随時確認 準備学習：①電気工事教科書 P347～P387を予習			
6	2 施工計画/2-2施工計画書 計画書の記載事項が言える。各種計画の意味がわかる	方法：教科書等の教材を使って説明。オリジナルプリント等で習得状況を答弁で随時確認 準備学習：①電気工事教科書 P347～P387			
7	2 施工計画/2-3施工中の管理 施工図、製作図、施工要領書作成の目的が言える	方法：教科書等の教材を使って説明。オリジナルプリント等で習得状況を答弁で随時確認 準備学習：①電気工事教科書 P423～P447			
8	2 施工計画/2-4検査・完成引渡し 検査の目的と時期がわかる	方法：教科書等の教材を使って説明。オリジナルプリント等で習得状況を答弁で随時確認 準備学習：①電気工事教科書 P423～P447			
9	3 工程管理/3-1一般事項 工程表作成の基本検討事項が言える。施工速度と原価の関係がわかる。パナナ曲線の意味がわかる	方法：教科書等の教材を使って説明。オリジナルプリント等で習得状況を答弁で随時確認 準備学習：①電気工事教科書 P423～P447			
10	3 工程管理/3-2各種工程表 いろいろな工程表の内容と特徴がわかる	方法：教科書等の教材を使って説明。オリジナルプリント等で習得状況を答弁で随時確認 準備学習：①電気工事教科書 P423～P447			
11	3 工程管理/3-3ネットワーク手法 ネットワーク工程表を作ることができ、工程表から所要時間を計算することができる	方法：教科書等の教材を使って説明。オリジナルプリント等で習得状況を答弁で随時確認 準備学習：①電気工事教科書 P423～P447			
12	期末テスト	項目1～11までに学んだことのまとめ。 準備学習：①電気工事教科書 P347～P447			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験の点数のほか、普段からの授業への取り組み姿勢、小テストの結果などを総合的に判断します。 定期試験80%、小テスト10%、授業態度等10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		2年間の電気の勉強のベースとなる、重要な科目のため。授業は段階を踏んで進む。常に全体の理解度を意識しながらアベレージを上げ、都度問題を解決させる。最終的には完全に理解できるよう、フォローも密に行う。			
実務経験教員の経歴	電気・電子技術者として、設計の現場に5年間関わっていた。第一種電気工事士				

科目名	施工管理法				
担当教員	富樫 久夫		実務授業の有無	○	
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	18時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 工事における各管理方法ををしっかりと理解する。 2. 各工事の工程表作成し、工事の時間を計算できるよう演習、講義を繰り返し行う。 3. 座学→模擬試験→解答と解説を繰り返し行い、知識と技能を身に付ける。 4. 2級電気工事施工管理技術検定取得のための対策授業				
学習目標 (到達目標)	電気の施工管理に関わる用語や計画の立て方などを整理し、2級電気工事施工管理技術検定に全員が合格できるレベルに到達する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	電気工事施工管理技術テキスト オリジナルプリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	2級電気施工管理技術士検定対策 ①品質管理		方法：2級電気施工管理技術士検定の過去問題と解説 準備学習：電気工事施工管理技術テキスト【品質管理範囲】 オリジナルプリントの予習		
2	2級電気施工管理技術士検定対策 労働安全衛生		方法：2級電気施工管理技術士検定の過去問題と解説 準備学習：電気工事施工管理技術テキスト【労働安全衛生範囲】 オリジナルプリントの予習		
3	2級電気施工管理技術士検定対策 工程管理		方法：2級電気施工管理技術士検定の過去問題と解説 準備学習：電気工事施工管理技術テキスト【工程管理範囲】 オリジナルプリントの予習		
4	2級電気施工管理技術士検定対策 科目試験		方法：2級電気施工管理技術士検定模擬試験 準備学習：電気工事施工管理技術テキスト【範囲抜粋】 オリジナルプリントの予習		
5	2級電気施工管理技術士検定対策 科目試験		方法：2級電気施工管理技術士検定模擬試験 準備学習：電気工事施工管理技術テキスト【範囲抜粋】 オリジナルプリントの予習		
6	2級電気施工管理技術士検定対策 科目試験		方法：2級電気施工管理技術士検定模擬試験 準備学習：電気工事施工管理技術テキスト【範囲抜粋】 オリジナルプリントの予習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験100% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点試験以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			2級電気工事施工管理技術検定合格のための対策授業。法令、規則などが試験範囲多岐にわたりあり、しっかりと理解しなければならない。そのため、常に全体の理解度を確認し、項目別に模擬試験と解説を繰り返し確実な習得に結びつける。全体の理解度に注視し、難しい部分は繰り返し解説する。		
実務経験教員の経歴			電気・電子技術者として、設計の現場に5年間係っていた。2級電気工事施工管理技術士		